

議会 だより



小豆島町

No. 28

平成25年5月1日発行



オリーブと共に「みんな仲良く」

苗羽小学校音楽部の演奏に迎えられたオリーブの樹(坂手:壺井栄生誕地)

審議議案

平成25年度予算について..... 2

一般質問

11名の議員が質問 5

小学生議会開催 10・11

住民の声・まちの力 12

80億円

3月定例会は、2月27日から3月18日まで20日間の会期で開かれました。

初日に、町長の25年度施政方針の演説があり、小豆島の復権に向けて、少子高齢化の社会の中にあっても、島が元気になる政策を地道に、大胆に実行することを表明しました。

一般質問には、11人の議員が登壇し、防災・産業・教育・福祉など、多方面にわたって論戦を展開しました。

また、条例改正や補正予算などを審議し、原案のとおり可決しました。

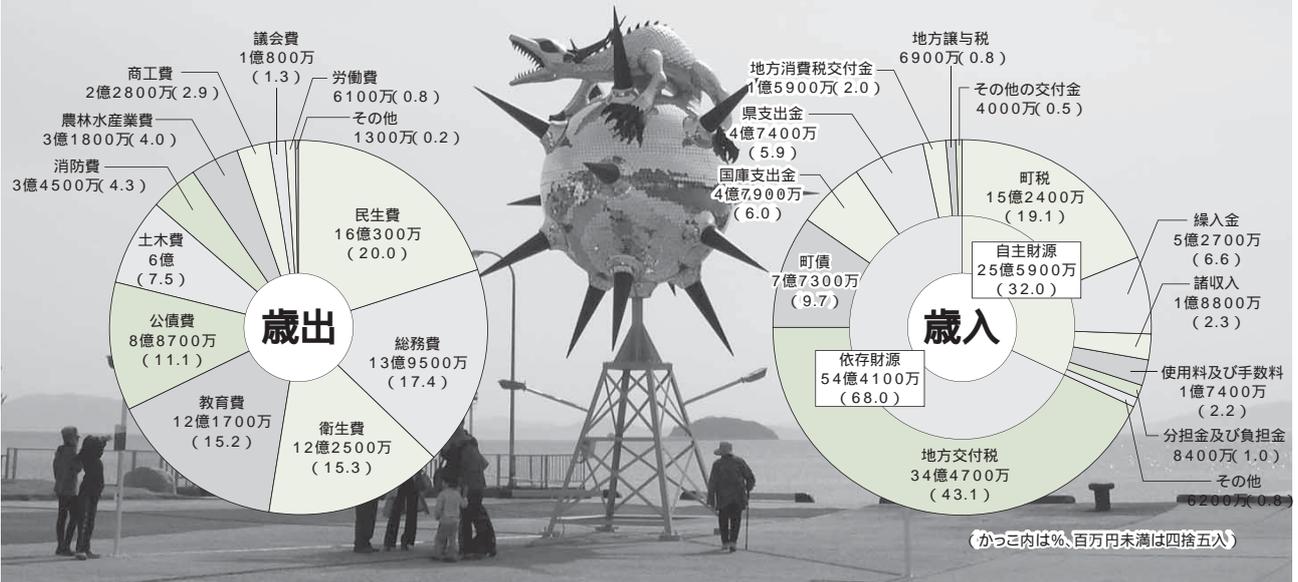
25年度一般会計、特別会計など合わせて11会計については、総務建設常任委員会、教育民生常任委員会にそれぞれ付託し、集中審査を行い、すべての予算を原案のとおり可決しました。

予算編成の考え方

この数年が島を元気にできる最後のチャンス。健康づくり、子育て・人づくり、産業づくりを中心に積極的予算を編成。

瀬戸内国際芸術祭の成功に向け、全力で取り組む。島の大切なものを守り、磨き新しい物語をつくる。

将来の財政負担を考え、役場の収支は黒字化を維持する。
今ある基金を有効活用。



小豆島を元気にするために

主な事業

町の抱える大きなテーマに役場全体で取り組むため、3つの本部を設置することになりました。今年度実施される主な事業をお知らせします。

健康づくり本部

オリーブを生かした健康長寿の島づくり
住民参加で食育プランを作成し、島内外へ広める。

「おりーぶ健康塾（仮称）」地域で介護予防、高齢者支援ができる人を育成



オリーブを使った料理を親子で楽しく

光ファイバーを用いたオリーブヘルスケアシステムの推進
664万3千円

インターネット回線を使って公民館から保健師と健康相談できる設備を池田、二生、安田、苗羽にも整備



オリーブヘルスケアシステム

小規模多機能型施設を福田地区に整備
4,290万円（H24補正）
日常生活に少し不安のある高齢者が集い、健康づくり運動や入浴サービスが受けられ、必要な時には寝泊りもできる施設

介護予防グループ活動支援事業
120万円

自主的に健康づくり、介護予防活動に取り組む団体を支援
内海病院の経営改善
早急に経営改善計画をまとめ、実行する。



早急な対応が求められる内海病院

国民健康保険の赤字改善
395万8千円
無駄な医療を無くす取り組みを実施（データ分析の実施）

新病院の実施設設計・建設工事に着手
5,683万6千円
（実施主体は小豆医療組合）

子育て・人づくり本部

子どもの体力向上事業
997万3千円

体育専門の指導主事により幼保・小・中学校で体力強化

すくすく子育て応援アクションプランの策定
135万4千円
子育て中の親も会議に参加してもらい計画を策定。計画に基づき支援サービスを提供

いきいき保育士等確保養成事業
1,127万7千円
新病院の院内保育所開設にむけた保育士等の確保・養成

5歳児検診の実施
218万6千円
医師など専門職により発達障害児の早期発見につなげる



特別支援教育事業
1,744万2千円

幼・小・中の特別支援教育における補助講師の増員

中学校統合事業
1億1,635万6千円
中学校統合に向けた施設やスクールバスの整備など

古文書調査保存事業
283万8千円
古文書を調査、整理保存し、新たな魅力を発見

こども医療費給付事業
471万8千円
中学卒業までの子ども入院にかかる医療費を無料化

難聴児補聴器交付事業
56万5千円
身障者手帳の交付対象とならない軽・中度の難聴児に対して補聴器購入費用の一部を助成

産業づくり本部

オリブトップワン
プロジェクトの
着実な実行
品質の高いオリブの
生産、販売
レベルの高い国際規格
づくりに参加



品質で勝負するオリブ生産

農業の振興

有害鳥獣対策の確立
キクの新品種試験栽培
30万円

鳥獣対策の強化

1612万4千円

食品産業に対する

側面支援

地場産業活性化セミ
ナーの充実、国内展示会

への出店などに助成

新しい産業振興のため

の助成制度づくり
「新しい産業づくり
条例」の制定

観光業の振興

1億1,040万2千円

瀬戸内国際芸術祭
2013を契機に小豆
島をアピール

路線バスの臨時運
行、レンタサイクル、
レンタカーの充実など



瀬戸芸作品の前で大いににぎわう坂手港

中山地区棚田の保全

893万4千円

棚田の村(棚田公社)
実現に向けて取り組
む。

地域おこし協力隊に
よる耕作放棄地の保全

管理など具体的な事業
に着手

町の商店の

あり方の検討

移動販売・宅配業務
の検討

航空支援

国に地域の実情に合
わせた支援制度の創設
を求める。



条例制定

新しい産業づくり条例

町内で新たな事業
(製造業、旅館・ホテ
ル業、ゴルフ場業、情
報通信業、専門サービ
ス、福祉関連産業など
町長が必要と認める業
種)を興し、その規模
が一定の基準以上の場合、
6年間にわたって、
固定資産税額分を助成
するものです。また、
町内において新たな事
業を興こそうとする場
合、その獨創性や事業
化の実現が確実なもの
等条件を満たせば、起
業準備費と販路開拓費

について補助金(50
万円~500万円)を
支給するものです。

その他制定された条例

小豆島町指定地域密
着型サービス等の事業
の人員、設備及び運営
等の基準等を定める条
例 ほか8条例

条例の一部改正

乳幼児医療費助成に
関する条例

これまで乳幼児医療
費の助成対象年齢は、
通院、入院共に小学校
就学前までとしていま
したが、25年度から小
学1年から中学卒業ま
での児童生徒の入院に
係る医療費を助成対象
とするものです。

小豆島町立学校条例

平成26年4月1日に
内海中学校と池田中学
校が統合し誕生する、
新中学校の校名を「小
豆島中学校」とするた
めの改正です。

水道事業給水条例

平成25年度より橘簡

易水道を上下水道事業に
統合し、岩谷簡易水道
の料金体系を変更する
ための改正です。

その他一部改正

都市公園条例
都市下水道条例
ほか8条例

その他の審議事項

小豆島町土地開発公社
の解散

旧内海町時代に設立
されましたが、事務の
合理化ということもあり、
解散することが決
まったものです。

小豆地区広域医療組合

規約の一部変更

小豆医療組合規約
で、土庄町との負担金
の負担割合をそれぞれ
2分の1ずつとしてい
ましたが、均等割
100分の20、人口割
100分の80と変更す
るものです。



浜口 勇 議員

新しい高校への

通学路の整備を

町「県に積極的に働きかけていく」

質問 平成29年4月開校を目指す小豆島の新しい高校は東蒲生地区に整備すると浜田知事が表明した。

約600名の生徒は朝の始業時刻に集中して登校することになり、自転車で通学する生徒は国道436号線を利用するが会社へ出勤する自動車と同じ時刻となり、現状の道路では極めて危険な部分がある。開校までに道路整備が急がれるので県への働きかけを強めるべきでは。

答弁 小豆島高校と土庄高校を統合して新しい高校を作るのは長年の課題であり、県議会が東蒲生に開校する方針を表明した。新しい

高校は特色のある元気の出る高校にするため、進学にも就職にもしっかりと対応でき、全国大会で活躍できるよう部活動の活性化、強化を図り、生徒たちが活力ある高校づくりを推進したいとの知事の方針を歓迎したいと思う。

な未整備区間がたくさん残っているので、高校と新病院両方の視点から、私が発起人代表となり両町の県会議員や地元関係者と「国道整備促進期成同盟会」を発足させ、島あげて今後、積極的に働きかけてゆく。

通学には国道を利用するが、現状では危険



道幅の狭い歩道（平木交差点付近）

一般質問



森 崇 議員

瀬戸内国際芸術祭の受け入れについて

町「パンフを全戸配布し、協力を呼びかける」

質問 3年前の瀬戸内国際芸術祭より更に復興の大きなチャンスだ。観光客にリピーターになってもらうには「人の親切」こそ大切だ。
みんなに協力してもらうために全戸に新しいパンフレットを配布すべきでは。

答弁 島民をあげて受け入れに協力して戴きたい。パンフレットは全戸配布する。
坂手など自発的な「おもてなし」やトイレの新設、土庄、中山、草壁間のバス走行など小豆島全体で取り組んでいく。

平和の決意とは

町「平和は最も大切にしたい」

質問 小豆島は二十四の瞳やオリーフなど「平和を願って」発展した。世界では今も戦争で子どもが犠牲になっっている。人は平和だから移動し観光もする。その決意は。

答弁 小豆島は世界平和に積極的な役割を果たす使命があると感じている。壺井栄さんは「みんな仲良く」と言っていた。平和を最も大切にしたい。

改正離島振興法

町「島が元気になる取り組みを進める」

質問 小豆島と沖ノ島と大島が離島の対象となった。

島を起点とする排他的経済水域は世界屈指の6番目の広さだ。九州十島村役場前の拓本には「汽船もまた道路なり」とある。航路も道路だ。改正法で醤油など特産品は支援の対象なのか。

答弁 改正法に期待しているが予算が限られている。

航路の復権は簡単でないが必ず実現させたい。また、活性化交付金を活用し小豆島が元気になるよう取り組んでいく。



十島村役場玄関前の拓本



森口 久士 議員

上水道の対応は 町「事業計画の変更も 含め、検討している」

質問 昨年9月、池田地区で水道水がカビ臭い、濁っていると聞いた。担当課の対応でその後治まっている。平成22年同様、異常気象による殿川ダムでのアオコの発生が原因とのこと。

今年夏の夏も異常気象になれば問題が起きるのでは。

香川県、小豆広域などの協議、浄水場施設

設の改修計画の状況は。

答弁 県は、今年1月ダムの深浅測量・水質・底質・地質調査業務を発注し、現在調査中である。調査結果で、小豆広域・土庄町と連携して、県に要望する。

平成22年度に浄水場更新計画を策定、事業に着手している。新たな事業用地確保が難航して、事業計画の変更を視野に検討している。

カビ臭対策として、活性炭注入装置等の設備についても検討課題に入りたい。



建築後40年近い殿川ダム

学校の制服に関して

町「購入先に困ることのないよう努力する」

質問 中学校統合を機会に、池田・内海地区で営業の実態のある店が、学校関係の制服を自由に販売でき、保護者などが自由に購入できるようにすべきでは。



答弁 内海地区の繊維組合の中には、統合を機に組合のあり方を検討しなければとの考えもあると聞いている。

教育委員会としては、今後も保護者が制服等の購入先に困ることがないように引き続き努力する。



中江 正 議員

猿害対策は

町「群れの調査などより効果的な対策を講じる」



捕獲された猿

質問 鳥獣被害を深刻と捉え事業を実施するとして、大規模緩衝帯、防護柵の設置助成制度の活用や、捕獲器材の購入に対する助成制度の新設などの対策強化は決意の表れであるが、猿対策は、小豆島町内全域で多くの方が困っている、何とかしてくれと言われる。

調べてみるとオオカミの尿のにおいで猿が近づかない、電磁波を飛ばす柵など、多くの対策が既に商品化されている。特に、猿はこれまで以上の積極的な対策を講じるべきでは。

答弁 ニホンザル生息状況調査を実施している。蒲生、中山、池田

段山の雌猿3頭を捕獲し、発信器を装着、行動範囲の調査を実施し、地元農家13名に1カ月間、目撃情報の収集に協力を頂き、猿の群れの行動を調査している。

現在、調査結果を集約中である。また、内海地区の猿は、福田、寒霞溪の群れの雌猿を平成25年度に捕獲し、発信器を装着予定である。

鳥獣対策の基本である、捕獲、環境づくり、防護の3点について今まで以上に取り組みたい。

オオカミの尿や電磁波などの商品の手法もあるが効果が限定的との情報で、費用や効果についての調査研究を進め、より効果的な鳥獣対策を実施する。



村上 久美 議員

平和の町宣言決議に

ふさわしい取り組みを

町「平和の町としての取り組みを行う」

質問 「核廃絶と平和の尊さ、世界の恒久平和の実現を希求することとはすべての町民の願いである」と決議文にある。また、反戦平和を訴えた壺井栄が世に深い感銘を与えた小説「二十四の瞳」の本質に応えるべき行政の姿勢が問われる。

答弁 10月24日から
の国連軍縮週間中設置

する。2カ月ごとに掲載する。歴史資料としても意義ある提案だ。今後戦争体験集作成の要否を含め検討する。

低所得者が入れる

老人福祉施設を

町「内海病院の施設活用の中で対応したい」

質問 施行後介護保険料の引き上げ、介護認定度の見直し等で施設に入所したくてもできない現状がある。今の利用料では負担ができない高齢者がいる。一人暮らしで低所得者が入所できる老人福祉施設の設置を。

答弁 内海病院の施設活用方法の中で対応したい。



老人福祉施設で

地域の元気臨時交付金の活用を

町「道路、橋梁、高潮対策等に活用したい」

質問 老朽化の道路、橋梁の改修、海岸付近住民の高台への避難場所設置等に交付金の有効活用を。

答弁 平成25年度以降事業の前倒しを含め、老朽化している道路、橋梁の改修、漁港等の高潮対策、防災本部・ハザードマップの整備等に活用したい。



藤本 博夫 議員

芸術祭はお接待の心で

町「さらに協力要請を広げる」

質問 瀬戸芸への島を挙げての対応の中で、各種団体への協力要請はどれくらい範囲まで行っているのか。

答弁 作品展開がなされる各地区については、公式には数回にわたり自治会や各種団体の代表者に説明を行った。実際スタッフや私自身が数えきれないほどの協力要請をしてき

た。その結果、住民の理解と機運が醸成されたと思っている。三都半島では「島の家」でお接待を行う予定である。まだまだ、色々な団体への協力要請を引き続きしていく。

小豆島文化の常設展示を

町「オシコミ船は神浦で展示する」

質問 小豆島の魅力づくりについては、島の文化、歌舞伎、秋祭り等の映像紹介がオリブナビにあるが、断片的であり、実物の常設展示でより魅力アップールできるのでは。

答弁 小豆島の伝統文化は、貴重な文化遺産である。町指定72点、県9点、国10点の91点あり、平成25年度より所有者訪問することで文化財保護活動を推進し看板等も整備するこ

とで文化財の紹介を進めたい。神浦のオシコミ船を瀬戸芸に合わせ、神浦コミュニティセンター前に展示することで地域の祭りの魅力をアピールしている。観光PRの拠点であるオリブナビで島の文化の紹介と適切な管理、加えてその場で見学できることが最大限のアピールになると考えている。



展示されているオシコミ船



安井 信之 議員

中学校統合による施設のあり方について

町「検討し、出来る限りの便宜を図る」

質問 中学校統合に伴い、既存施設、代替施設はどうなっていくのか。

答弁 図書の貸出はイマージュセンターに戻す予定である。遊具等は、周辺の用地の利用状況や地域の意見を参考に検討していきたい。



移設される子ども文庫

等で本の予約もできる。児童の図書を専門とする。また、2団体の利用があるが、学童保育センターを利用するようにする。

修道館は、2団体の利用があるが、イマージュセンター2階の多目的ホールを利用する、用具等の保管場所を設置する。できる限りの便宜を図っていく。

もし、音の問題であれば、音の問題だけの調整をする。

今後体育施設をどのように運営していくか検討したい。

健康長寿の島の取り組みについて

町「地道に未永く取り組みたい」

質問 住民参加型の健康づくりの取り組みについての考えは。

答弁 オリーブを使った健康長寿の島づくりの取り組みも成果が出るには何年もかかるが、地道に未永く取り組んでいく。

国の保健福祉対策は、介護保険中心で来たが、年齢を問わない地域の保健活動が大事だ。保健師や栄養士が地域で一人一人保健指導するという形に戻すべきだ。本来の健康づくりを中心とした行政のあり方に変えるということ、少し時間かかるが取り組みたい。



鍋谷真由美 議員

生活保護基準

引き下げに反対を見直しは求めない

質問 安倍政権は生活保護基準切り下げをしようとしているが、すべての国民に「健康で文化的な最低限度の生活」を保障する憲法25条に反する。また、就学援助や最低賃金、住民税の非課税限度額、保育料、医療・介護保険

答弁 国の制度であり、国に見直しを求め考えるはない。

坂手港に洋式トイレを

町「坂手港の港湾整備の中で検討する」

質問 坂手港で洋式トイレがなく困ったという話を聞いた。洋式トイレが必要だと思うかどうか。公民館などをいつでも使用できるようにできないか。

答弁 今後坂手港の港湾整備の中で検討する。瀬戸内国際芸術祭期間中は、休館日でも



坂手港のトイレ

坂手公民館の身障者用トイレが利用できるように対応する。

町職員の賃金と仕事について

町「地域経済の状況等を踏まえ、判断したい」

質問 公務労働者の働く誇りを奪い、生活悪化をもたらし、地域民間への影響も深刻で、内需拡大に逆行し、地域経済を一層冷え込ませる賃金引き下げはすべきではないと思うかどうか。また、小豆島を元気にするまちづくりを実現するために必要な人員の確保をすべきでは。

答弁 地域経済の状況、県下市町の動向を踏まえ、総合的に判断したい。必要な人員は確保する考えだ。



谷 康男 議員

瀬戸内海国立公園

指定80周年について

町「国や県に働きかけていきたい」

質問 昭和9年3月16日に瀬戸内海国立公園が日本で最初の国立公園として指定されてから、来年でちょうど80周年となる。町として80周年にむけての考えは。

という国立公園80年の歴史の中では、非常に重要なところがある。寒霞溪の価値をもう一度社会に発信できるような取り組みを小豆島としてやりたい。

海の復権を担当する国の関係省庁への働きかけを県にも願います。

答弁 小豆島は寒霞溪



瀬戸内海国立公園の中心となる寒霞溪

町「住民の防災意識向上のためだが、

表示を工夫したい」

質問 国道、県道の一部に海拔5メートルの表示があるが何を意味しているのか。

沿道住民の防災意識の高揚、地震、津波発生時の避難行動に資することを目的としているというのだが、住

民には不親切であるので町として設置する表示は、観光地ということも意識したいろいろな工夫をした表示を考える。

答弁 国土交通省と四国4県が共同で取り組んでいる事業でおおむね5メートル以下の県管理道に設置されている。



道路沿いに設置された海拔5m表示



大川 新也 議員

病院経営悪化の改善は 町「新病院開設までに に体質改善する」

答弁 開院当初から赤字構造の病院であった。公立病院であり、やむを得ないとは思いますが、アップ額は総額5,280万円、1人平均377万円であり、個々の給与は今後モデルケースとして開示する。もっと早くから取り組むべきであったが、新病院開院までに体質改善をする。

寒霞溪の復権は

町「再生に向け全力で取り組む」

質問 瀬戸芸開催は、海・小豆島の復権に意義があるが、これまで島の知名度を上げてきた寒霞溪は今、放置されたままに感じる。寒霞溪の復権・保全に行政の力を。

答弁 今、寒霞溪の事が忘れかけている。来年が国立公園制定80周年でもあり、もう一度原点に立ち返って保全・再生に向けて、全

力で取り組んでいく。



寒霞溪登り口

町内での
体罰はあるのか
町「町内での報告はない」

質問 県教委実施の体罰実態調査での町の現状、指導と体罰の違い、考え方は。

答弁 町内各校からの事故報告はない。指導は子どもの健全育成を図るため、体罰は指導者の未熟さ、不十分さ、都合のためのものである。今後体罰禁止の趣旨を周知徹底し、教職員意識向上を図っていく。



植松勝太郎 議員

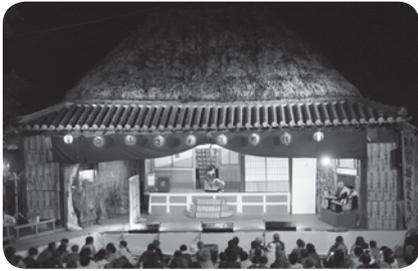
内海病院の経営改革 町「専門家にも 参加してもらおう」

質問 内海病院の経営改革チームの人たちとは。

答弁 健康福祉部長、病院事務長、看護部長、庶務係長ら8人で構成し、コンサルタントにも参画してもらい進める。

教育と福祉の政策は

質問 教育と福祉の政策で壁を乗り越えた一貫した教育とは。



豊かな文化を後世に伝えよう

答弁 保育所と幼稚園、福祉サイドと教育サイド、今まで何も連携がなかった。人づくり本部を作り、両方見られる責任者を置き、連携を図る。

離島振興の考えを

質問 離島振興法に指定されたとき、船賃やフェリー代に補助金が使えるのか。

答弁 アート、文化財保護、地場産業の振興等、新しい施策の財源として使える様工夫したい。運賃軽減、新造船の助成は現段階では見えていない。他の自治体と連携していく。

地元商店の活性化は

質問 地元商店の活性化に行政としてどのような手助けが出来るか。

答弁 広報活動、商品券等の活用、移動販売等の促進の三本柱でやる。積極的に参加、支援していく。

オリープの国際規格づくり

質問 オリープの国際規格づくりとは。

答弁 島のオイルにふさわしい規格基準づくり、高品質のオリープを提供している国々の協会と連携を模索しやっていく。

有害鳥獣対策

質問 有害鳥獣対策で、大規模緩衝帯、防護柵の予定地は。

答弁 池田北地、安田古郷諸口に約1キロ、柵は北地1.4キロ、安田古郷2.2キロを予定。

星城小学校6年生による

「そこが知りたい！」

小学生議会

2月4日、星城小学校の児童12人が「議員」となり、町政の課題や学校生活を通じて感じた事柄などを質問する「小学生議会」が開催されました。コミュニケーションバスの整備や、今後のオリープ事業の展開についてなど鋭い視点からの質問がありました。
(質問は一部抜粋)



こうや 光陽 議員

質問 どんな人にも優しい、学校のユニバーサルデザイン化はできないものでしょうか。

答弁 お金の問題もあるのですが、今すぐに整備はできませんが、まずは人と人の助け合いを工夫していきたい。



あやえ 礼栄 議員

質問 子どもたちみんなが遊べるような場所を作ってください。

答弁 家の周りに安全に遊べる場所があるのは大事。色々な知識を出して取り組みたい。



ひびき 響 議員

質問 芝生のサッカーグラウンドや、雨天でもスポーツができる施設が充実できませんか。

答弁 醤油業や観光業が活性化して、町の財政が豊かになれば可能かと思いますが、今は恵まれていない環境で工夫してスポーツに取り組みのも大事だと思います。



一流トレーナーを招いてのトレーニング講習会



和田 靖子 議員

冬でも泳げる施設を造ってほしいです。自分の泳力向上にも大人の健康維持にも役立つと思います。

答弁 やはりお金が要る話なので、すぐには出来ませんが今後、島が観光地として、また高齢者が長期滞在して療養する場所として、温水プールがあることがひとつのセールスポイントになるかもしれません。そういった機会を使って整備できればと思います。



かの夏乃 議員

今のまま小豆島高校を残してもらえませんか。

答弁 小豆島全体のことを考えて、誰にとつ

ても公平と思える場所に高校ができると思います。ある程度、通学に時間がかかることは受け止めないといけません。と思います。



あやか高崎 議員

島に若者が残るような具体的な活性化の取り組みを教えてください。

答弁 島には地場産業などいいものが残っています。これらを生かす工夫、光ファイバー網の整備などを行い、若者にとって生きがいを持って働く場所を作っていきたいと考えています。



地場産業を活かす工夫を



かずま岩本 議員

地域の実態に合ったコミュニティバスを運行してもらえませんか。

答弁 高齢者の足確保は非常に大切な問題。まずはオリーブバスを利用してほしい。コミュニティバスについては整備していきま

移動販売車のようなサービスはできませんか。



ゆずの柚乃 議員

答弁 一部の地区では、民間のサービスとして行っています。行政も福祉の基盤となるようなところには補助をして、継続的な取り組みができるようにしたい。



ひより岡田 議員

高齢化が進む小豆島には、ぜひリハビリセンターが必要だと思います。

答弁 今あるリハビリセンターを利用していただきたいと思えます。そして、脳梗塞などにならない食生活を進めるなど、病気を予防する取り組みが大切だと考えています。

美しい島にするためゴミの収集、リサイクルの工夫はできないのでしょうか。



よしき笠井 議員

答弁 まずはクリーン作戦をこれまで以上に展開してもらいたい。そして、芸術祭に絡んできれいな所にはゴミ

は捨ててはいけないという雰囲気を作りたい。



ひより秋長 議員

小豆島と言えばオリーブと言ってもらいたい続けるための、具体的な取り組みは。

答弁 栽培量で勝負するのではなく、品質で勝負していく。品質の高さと商品開発力で世界のトップランナーを目指す。

いざ地震が起こっても、子どもだけで避難できるようにするための取り組みは。



ゆいな大下 議員

答弁 ハードの面では建物の耐震工事、ソフトの面では避難訓練を実施します。日ごろから頭の中で災害を想定し、自分の判断で逃げられるようにしたい。



星城小学校6年生議員と傍聴に来ていた児童の皆さん



「地域の輪」

萩 本 昌 平
(浜条自治会会長)



浜条は勇壮な池田の太鼓まつりである亀山八幡宮の秋祭りが開催されるところです。祭礼に奉納する太鼓台を船に乗せて宮入りさせる「オシコミ」



桜咲き誇る城山

を見ようと朝早くから浜条の湾の中は見物客が場所取りです。

二十四の瞳のロケ地であった城山も地元住民の力で荒れた山の伐採や桜の植樹整備で桜の名所だった城山に復活しています。

瀬戸内国際芸術祭も開幕し、小豆島に足を運んでくれ

る人々に笑顔と感動を再びと願っています。

現在、浜条地区として困っている問題はゴミ出しです。指定袋を使用しない、違う曜日にゴミを出す、そして不法投棄。ルールを守らないのはみんなに迷惑をかけます。

昨年初めて防災訓練をしました。平穏な生活やすべてを奪った東日本大震災の事を頭に入れ、地区住民の協力で炊き出しや避難誘導でお互いを助け合う意識を持ちました。

若い人が少しずつ増えつつある浜条がその力で活性化し近隣に声をかけあい、人とのつながりで地域の輪を大きく広げたいと思います。

また精神面の指導を行う上では、失敗を後悔せず反省し、次に活かせる様にさせ、成功は褒めてあげ、自分の力だけを過信しない事。仲間の力を信じて、失敗を励まし、フォロワーを思いやりのある気持ちをもって、協調性を身に付ける事ができればと考えています。

池田ファイターズは、OBなどを含めた3名の指導者を中心に、2年生から5年生の12名で活動している野球チームです。技術指導を行うことはもちろん、礼儀も教え、負けても勝つても、誰からも拍手を送られるようなチームを目指しています。

技術面の指導を行う上で、野球を嫌いにならず、燃え尽きてしまう気持ちにさせる事のない様な指導を心がけています。そして中学・高校へと長期にわたる、次のステージへ進むためのものであると考えています。

まの
カ
池田
少年野球
ファイターズ



第34回NHK杯ジュニアの部 第3位に輝く

そして、楽しみながらプレーしつつも、野球ごっこではなく、勝つ事に喜びを、負ける事には悔しさを感ぜられ、我慢強く勝負を諦めない野球ができる子どもに育ってくれる事を期待しています。

最後に、そんな池田ファイターズと一緒にプレーしてくれる仲間を募集しています。今後ともよろしくお願ひします。

代表 村上暁夫
75-1176

編集後記

私たち編集委員会は、住民の皆さんに、できるだけわかりやすく、興味をもって読んでいただけるよう心がけ編集を行っています。皆さんが議会だよりを楽しみに読んでいただくため、どのような紙面づくりをすればよいか、写真を増やしたほうがよいか、文章はわかりやすいかなど、毎号表紙の写真から色使い各ページの構成まで長い時間をかけて検討しています。

今後とも議会だよりを読んでいただくとともに、親しめる議会だよりを創って行きますので是非、議会だよりに関するご意見をお聞かせください。

本紙に対するお問い合わせは

発行 小豆島町議会 編集 小豆島町議会広報編集特別委員会

〒761-4388 香川県小豆郡小豆島町池田 2100-4 TEL(0879)75-1100 FAX(0879)75-0108

E-mail olive-gikai@town.shodoshima.lg.jp